

『見習うべきでないイエスの言動』

'22/10/23

聖書箇所: 福音書から随所

今日のメッセージ・タイトルは奇をてらい過ぎて、ひょっとしたら、「一体今日は、どんなメッセージを語るつもりなのか？」という風にご心配をお掛けしているかも知れません。でも、どうか、安心して下さい。皆さんがご存知のように、私は、不器用なほど、聖書のみことばを説き明かすことしかできませんので…。恐らく、今日のメッセージを最後まで聞いてくださったら、きっと皆さんも共感してくださることと思います。

今日は、第4主日ということもあって、いつものエペソ書の学びから少し離れて、皆さんと一緒に、聖書のみことばを学んでいきたいと思えます。…ところで、皆さんは、キリスト教書店などで、こんな風なキリスト教グッズをご覧になったことがないでしょうか？これらのグッズをよく見てみますと、共通して「W・W・J・D」というアルファベットを見ることが出来ます。実は、これは、「What would Jesus do?」という英語の、まあ言えば、省略形(各単語の頭文字)で、その意味は、「イエス様なら、どうするでしょう？」というものです。

これは、つまり、クリスチャンたちが様々な選択の場面に出くわした時に(本当は、常に選択があるが)、「もしも、今の自分の状況に、イエス様がおられたとしたら、どんなことを選択されるだろう？イエス様は、どのような行動をされるだろう？」ということを考えて、「神様に喜ばれる選択をしていこう」という、まあ言えば、クリスチャンたちが励みとするための考え方です。

命題: 私たちが見習うべきでない、イエス様の言動とは？

どうか、皆さん。…まず、最初に分かっておいてほしいことは、私自身も基本は、イエス様の言動を見習って、そういったことを常々考えている、ということです。敢えて、詳しく説明するまでもないと思えますが、例えば、イエス様は、あの最後の晩餐の時、弟子たちの足を洗って、こう教えてくださいましたでしょ？『わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。』(ヨハネ 13:15)って…。また、いつも引用していますが、1ペテロ 2章のみことばは、「イエス様が、私たちのために模範を残してくださったのだ」(1ペテロ 2:21-23)という風にも教えてくださいました。

でも、今日、私たちが学んでいきたい内容は、「そんなイエス様であっても、幾つか、私たちが模範とすべきでない例外的な部分がありますでしょ？」ということなのです。…今日は、先程も言いましたように、私たちが見習うべきでない、イエス様の言動を3つのポイントで見えていくことによって、イエス様とは一体どういった御方なのか？そうして、私たちは、イエス様のことをどのように見ていくべきなのか？ということについて、今一度、確認していきたいと思うわけです。今日、このメッセージを聞いてくださることで、まずは、全員が、イエス様の与えてくださる救いの恵みに預かることができ…、願わくは、ますます、的確に、この世にあって、キリストの良い証しをなしていただくことを期待いたします。

I・イエス様の 礼拝 に関して…(マタイ 28:16-20)

どうぞ、まずは、マタイ 28:16-20のみことばをご覧くださいませ？…ここは、皆さんもご存知のように、あのイエス様が十字架後に復活をされて…、その後、ガリラヤで弟子たちと再会された時のみことばです。そこには、このように記されています。

- 16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。
- 17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。
- 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。
- 19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によ

ってバプテスマを受け、
20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

●イエス様は、人々からの礼拝を 受けられた !

今読んだみことばは、皆さんも、よくご存知のみことばです。どうぞ、今読んだ 17 節のみことばに、注目して下さいますか？…このみことばは、「そこに居た者たちがイエス様のことを礼拝した」ということを教えてくれています。それと、ここ 17 節には『ある者は疑った…』とあることから、当時、その山には、11 人の弟子たち以外にも、誰か居たであろうことが分かります。…ま、それはさておき、皆さんは、もし誰かが、皆さんのことを神様として礼拝しようとしたら、それを黙って受け入れられますか？…そうじゃないでしょ！…だから、私たちはイエス様のすべてを模範とすべきではないし、実際、できない部分も幾つかある、という話です！

…というわけで、まず、今日最初のポイントは、イエス様の「礼拝」に関することです。私たちは、イエス様が御受けになったように、人々からの礼拝を受けることはできないし…、また当然、受けるべきでもありません。そういったことを今から、もう少し詳しく確認していきましょう。

皆さんはご存知でしょうか？…実は時々、エホバの証人たちが「イエス様は、1度たりとも、ご自分のことを真唯一の神である！とはっきり宣言されたことはない…」ということを主張されることがあります。…確かに、ある意味においては、そうかも知れません。でも、それは正しい聖書の理解ではありません。

一体、どうしてなのか？…まず第1に、イエス様は、誰よりも、へりくだった…、謙遜な御方でありました。だから、イエス様御自身がこんなことをおっしゃっています。マタイ 11:29、『わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。』って…。皆さん、聞いてくださいました？イエス様は、御自分のことを「わたしはへりくだっている…」ということをおっしゃられたでしょ？普通、へりくだっている人は「自分のことをへりくだっています」とは言いません。しかし、イエス様は、先週も学んだように、「はい」「はい」、「いいえ」「いいえ」というように、事実を隠すことなく話されるような御方だったので、事実をありのまま、お話ししてくださったのです。

また、私たちが少し前に学んだ、ピリピ 2:7 のみことばでも、イエス様が、『ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。…』ということが教えられてありますでしょ？あそこでも学んだように、ここで、『仕える者の姿』(μορφή)というギリシヤ語には、決して、変わるべきが無いような本質を表わす言葉の「モルフェー」が用いられてあります。…つまり、イエス様の謙遜やへりくだられるような姿勢というようなものは、イエス様が一時的に持っておられた御性質ではなくて、イエス様が、ずっと変わらずに持っておられたような特性・本質であられたのです。…皆さん、分かって下さいますか？だから、イエス様は、御自分のことを、あまり積極的に、「わたしこそは神である！お前たちは、わたしを拝むように！」とはおっしゃられなかったのです。

また、2番目に、イエス様は、間違いなく、大勢の者たちの礼拝を御受けになられました。…実際、ここマタイ 28 章のみことばがそうですが、ここだけでなく、福音書を見ても、たくさんのみことばが、イエス様に対して、「ふし拝んだ」ということを教えてくれています。…まず、①多分今、皆さんが開かれているマタイ 28:9 を見ると、イエス様が葬られたお墓に行った女性たちが、復活後のイエス様を見て、イエス様のことを拝んだということが記されています。それ以外では、例えば、②自分の娘が重い病にかかっていた、あのカナンの人の母親から(マタイ 15:25)…、あるいは、③ゼバダイの子たち(ヤコブとヨハネ)の母親がイエス様に懇願した時(マタイ 20:20)…、あるいは、④マルコ 3 章を見ると、悪霊たちがイエス様に対して伏し拝んだ(マルコ 3:11)なんていう、みことばもあります。…このように、イエス様は、多くの者たちから、伏し拝まれて…、言わば、礼拝を受けられたのに、それを「止めてください！わたしは、そのような者(=神)

ではありませんから！」などと言って、断われませんでしたでしょ？

●礼拝に関する神のみこころとは？

そんなことを言いますと、エホバの証人たちは、「いえ！ イエスは、神そのものではなくても、神に近い…、御使いたる存在であったから、いちいち、それを断られなかったのだ…」とおっしゃるかも知れません。しかし、本当に、そうでしょうか？

例えば、使徒 10 章の記事を見てみますと、使徒ペテロが、ローマの百人隊長であった『**コルネリオ**』という人物を訪問した時、そのコルネリオが、ペテロのことを『**ひれ伏して、拝んだ…**』ということが記されています。しかし、その時、ペテロはどうしました？…使徒 10:26、『**するとペテロは彼を起こして、「お立ちなさい。私もひとりの人間です」と言った。**』と記されています。…この時、ペテロは、「**止めてください！ 私は神ではない！ 私もひとりの人間ですから…**』ということを行ったのではありませんか？

それと、実は、黙示録 22 章には、使徒ヨハネが、何と御使いに対して、ひれ伏して拝もうとしたということが記されています。しかし、その御使いが、ヨハネに対して、こう言ったのです、『**やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のこばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。**』(黙示録 22:9)って…。「神を…、いえ、神だけを拝みなさい！」と御使いは言ったのです。

皆さん、分かっていただけますか？…このように、神様によって救われて、その神様のみこころを知った者たちは、間違いなく、その神様のみこころを実践しようとします。「いや、相手側が間違っ、私のことを礼拝してきたのだから…(シメシメ)」なんていう風には思いません！…そうでしょ！

…と言いますのも、例えば、イザヤ 42:8 には、神様のお言葉として、**こんなみことばが記されています。『わたしは【主】、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄光を刻んだ像どもに与えはしない。』**って…。ここで神様御自身がおっしゃってられるように、神様の栄光というようなものは、真の神様に対して“だけ”捧げられるべきものであります！…だから、天の神様は、本来、その神様に対してだけ捧げられるべき栄光や礼拝を他の者たちが受けることを「**良し**」とはされないので。…そうでしょ！

じゃあ、果たして、もしもイエスが真の神様ではない…、何か御使いか…、あるいは、「**神ではない神的存在**」だったとしたら、そのイエスが、人々からの礼拝を受けて、それを断られない、なんていうことが有り得るでしょうか！…絶対に、そんなことはない、私は考えます。

●私たちが 実践 すべき適用

このように、イエス・キリストは、間違いなく、真唯一の神様です。だから、今皆さんが開いておられる**マタイ 28 章**でも、イエスは、『**わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。**』というようなことをおっしゃられたのです。…ねえ、皆さん。神様以外に、「天においても、地においても、一切の…、(つまり)すべての権威を御持ちの方」がおられると思いませんか？…居ないでしょ！

そして、**19 節**でも、イエスは、**こうおっしゃってられます、「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け(なさい)」**って…。この部分を、原語であるギリシヤ語で観察してみると、『**御名**』というところが単数形なのです。…でも、ここには、①父、②子、つまり、イエス・キリスト、③聖霊という、3つの名前が挙がっているのです。…ということは本来、ギリシヤ語の文法では、「名前」という表現を複数形にしないといけません。だって、名前が3つ続いているから。…なのに、名前が単数形であるということは、父も…、子なるイエス様も、そして、聖霊もまた、同じ一つの存在である！ということを見せてくれているのです。…つまり、イエス様も、聖霊なる神も、父なる神様と本質を等しくする、同じ一つの神であられる！ということなのです。…だから、イエス様が、神として、人々から礼拝を受けられることは、何ら、問題が無いのです。

さあ、この教えを受けて、私たちは、どうすべきでしょう？…私たちは、このイエス様のことを、真唯一の神として信じ受け入れて、まずは救われることです。それなしに、私たちが神様に喜ばれることはありません。その次に、そのイエス様を真の神として、信じ受け入れた証として、イエス様のみこころを求め…、そのみこころに従っていくことです！

それと、今日はもう時間が無いので、ほとんど触れませんが、イエス様だけが真の神様だと信じ受け入れたら、そのイエス様以外の栄光を求めないことです！自分の栄光や自分が如何に優れているか、素晴らしいかなんて、クリスチャンなら、どうでも良いのです。私たちに与えられた務めは、神様の栄光を求め、神様の栄光が現わされることです。…それこそが、私たち…、神様によって造られた人間の「本来のあるべき姿」ではないでしょうか？

II・イエス様の 祈り に関して…(マタイ 6:6-13)

さあ、今日も、最初のポイントが少々長過ぎましたので、今からは、少し駆け足で見たいと思います。その次に、今日私たちが学んでいきたい2番目のポイントは、**イエス様の“祈り”に関することです。**…どうぞ、今度は、マタイ 6:6-13 のみことばをご覧ください。

- 6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。
- 7 また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。
- 8 だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたが願うる先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。
- 9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』
- 10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。
- 11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。
- 12 私たちの負いめをお赦しください。私たちが、私たちに負いめのある人々を赦しました。
- 13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』[**国と力と栄えは、とこしえにあなたのものであります。アーメン。**]

●イエス様が教えてくださった、模範的な 祈り

今読んだみことばの最後、13 節の後半部分は、オリジナルのマタイの福音書には書かれていなくて、それ以降、後代になってから書き加えられたということがほぼ確実ということが分かっています。…ま、それは今日のテーマではないのですが、この 9-13 節の部分は、「**主の祈り**」と呼ばれている、有名な聖書箇所です。ここで、イエス様は、**9 節**、『**こう祈りなさい！**』とおっしゃって、私たちクリスチャンが祈るべき、“模範的な”祈りについて教えてくださっています。…このみことばは、私たちの教会では過去2回ほど、まあまあ時間をかけて学んだことがあります。本当なら、ここだけでも、十分、1回か2回ほどの時間をかけて学ぶほどのことが教えられてありますけれども、今日のところは、無茶苦茶、簡単に説明させていただきます。

その時に学んだように、ここでイエス様は、弟子たちに対して、「**どのように祈るべきか？**」ということについて教えてくださっています。今読んだ、特に、9 節以降でイエス様は、①まず、天にいます父なる神様のことを呼びかけておられます。そのために、私たちは、まず、この神様を個人的に信じ、救われる必要があります。②次に、神様の御名をたたえて、その神様のみこころがなされることを願っておられます。そして、③その次に、私たちの必要について祈るべきことを教えてくださっています。…正直言って、私を含め多くの

方々の祈りは、まず、神様の御名をたたえとか、その神様のみこころがなされることよりも、自分たちの願いや必要を訴えかけることの方を優先してしまっていないか？

でも、イエス様が教えてくださった模範的な祈りは、まずは、神様のことをあがめ…、その神様のみこころを求めなさい！ということをお教えたのです！…ひょっとしたら、私たちクリスチャンの多くは、イエス様を信じて、救われた時に、先輩のクリスチャンたちから、「祈る時は、こう祈るんですよ」ということで、祈りの初めには、「天の父なる神様」と呼びかけて…、最後には、「イエス様の御名によって祈ります。アーメン！」というような…、悪く言ってしまうと、祈りの前後に付ける「キーワードだけ」を学んで、一番肝心な、祈りの内容や祈るべき優先順位に関しては、イエス様を信じる前と、ほとんど何も変わっていないような祈りを捧げてしまっていないでしょうか？…もしも、私たちが真の主権者なる神様を信じて救われたのだらば、間違いなく、私たちの祈りは、それまでの石や木で出来ただけの偶像に捧げていた祈りとは、大きく、違っているはずじゃありませんか？…でも今日は、申し訳ありませんが、それとは違うテーマについて学んでいるので、そういったことについて詳しく学んでいくだけの時間がありません…。

●聖書に記されてある、祈りの 実例 について

でも、どうか、皆さん。この聖書に記されてある、イエス様が捧げられた祈りの“実例”について思い出してみてください。…例えば、ヨハネ 17 章には、私の知る限り、イエス様が捧げられた祈りの中で、最も長く詳しい祈りが記されてあります。その祈りを見てみると、やはり、マタイ 6 章で、イエス様が教えてくださった「主の祈り」と幾つかの共通点を見ることが出来ますが…、でも、その祈りと「主の祈り」とでは大きく違います。

また、「ゲツセマネの祈り」という、イエス様があの十字架の御業を直前にされて、捧げられた祈りも聖書には記されてあります。「ゲツセマネの祈り」に関しては、マタイ伝とマルコ伝、そして、ルカ伝に記されてありますが、どれも皆、大きくは違っていません(と思います)。

そこで、今回はマルコ伝に記されてあるものだけ紹介させていただきますけれども、マルコ 14:35-36 に、こう記されてあります。『35 それから、イエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、もしできることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈り、 36 またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。』って…。いかがですか？もちろん、「主の祈り」と共通点はあると思いますが、これもまた、大きく違いますよ？

今、私が何を言いたいかと言いますと、イエス様が教えてくださった「主の祈り」というのは、あくまでも、1つの模範と言うか、1つのサンプルであって、イエス様は、「主の祈りと、全く同じ…、一言一句違わない祈りを捧げなさい！」ということをお教えたのではないでしょ？ということなのです。もし、そうだったら、イエス様も、あるいは、新約聖書に記されてある弟子たちの祈りだって、あのマタイ 6 章に記されてある「主の祈り」とほとんど同じような祈りを捧げていたはずなのです。…違いますか？

どうぞ、多分、今、皆さんは、マタイ 6 章を開いてくださっていると思います。その 6-8 節に何と記されてありますか？…そこで、イエス様は、まず、6 節で、①祈りというもの基本、個人的なものだから、祈る時には、「奥まった部屋に入りなさい！」ということをお教えたのです。…と言いますのも、当時の宗教家であったパリサイ人や律法学者たちは、人に見せるために、わざわざ、通りの四つ角に立って祈っていたからです。また、②7 節に何とあります？『また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただ繰り返してはいけません。彼らはことば数が多いと聞かれます。』とありますよ？イエス様は、「同じ言葉をただ繰り返すのは止めなさい！それは、異邦人たちがやってることですよ！」と教えてくださったじゃないですか！③そして、8 節で、天の神様は、私たちがお願いするよりも前に、私たちが本当に何が必要かを

御存知であられる！ということなどを教えてくださいました。

●私たちが 実践 すべき適用

皆さん、ご存知ですか？…実は、カトリック教会では、「ロザリオ」という…、日本で言うと数珠(じゆず)のようなたくさんの玉を付けた道具を使って、幾つかの祈りを何度も何度も唱えるような習慣があるのです。実は、昨日、インターネット上の辞典を見てみたら、そこに、こんな風な説明がありました、「ロザリオは、聖母マリアへの祈りを繰り返し唱える際に、その回数を確認するために用いる道具である。ロザリオは手でたぐって祈るもので、文化・地域により受け取り方には多少の差はあるものの、装飾品として首にかけられるものではない。形状としては、小さなものは 10 個の珠と十字架だけというシンプルなもの、大きなものでは十字架だけでなく、キリストの像や「不思議のメダイ」が付いているものもある。…」と説明されておりました。

皆さん、こういったような、聖書に記されてある祈りをただ、何回も何回も繰り返すことって、…果たして、イエス様が教えたかったことなんじゃないでしょうか？イエス様は、私たちが、たくさんの祈りを暗唱して、それを何度も何度も繰り返すことを願っておられたのでしょうか？…正直言って、私は違うと思います。だって、イエス様は、『異邦人のように同じことばを、ただ繰り返してはいけません。彼らはことば数が多いと聞かれます。』(マタイ 6:7)と教えてくださったじゃないですか！

そこで、私たちが実践すべきことは、ただ単に、聖書に登場してくる祈りを暗唱するよりも、むしろ、それが、どんな状況の時に祈られたのか？また、それぞれの祈りに、注目すべきポイントはどこか？ということをして学んで、イエス様の祈りに限らず…、弟子たちや、旧約聖書の祈りや詩篇などを通して教えられた原則をよーく理解して、それを、私たちの祈りや私たちの考え、あるいは、優先順位や価値観などに反映させることではないでしょうか？…多分、イエス様は、「主の祈り」をただ、口先で唱えるようなことを望んでおられないと思います。…皆さんは、どうでしょうか？

III・イエス様がなされた、伝道 に関して…(マタイ 19:16-26)

そうして、今から、あまり時間が無いのですが、最後 3 つ目のポイントを駆け足で見たいと思います。どうぞ、皆さん、今度は、マタイ 19:16-26 のみことばをお開きください。最後に、3 つ目に、私たちが注意すべきことは、イエス様がなされた“伝道”に関するアプローチです。マタイ 19:16-26 には、こう記されてあります。

- 16 すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」
- 17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちに入りたいと思うなら、戒めを守りなさい。」
- 18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。」
- 19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」
- 20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」
- 21 イエスは彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」
- 22ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからであ

る。

23 それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国に入るのはむずかしいことです。

24 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」

26 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」

● 裕福な青年に対して、イエス様がなされた伝道

今読んだのは、“裕福”な青年(役人)に対して、イエス様がなされた伝道に関するみことばが記されています。…ここもまた、今読んだ聖書のみことばを普通に説明&理解しようとすれば、最低でも、20-30分程の時間が必要です。そこで、もし皆さんが興味あるようでしたら、YouTube で公開されてある、2021/5/30 に語られたメッセージを聞いてみてください(ただし、マルコ伝の平行記事)。

そこで今、本当に限られた5分程の時間内で、まず、皆さんに注目してもらいたいことは、イエス様に対して、『永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか?』と尋ねてきた青年に対して、イエス様がなされたアプローチです。ここで、イエス様は、①「戒めを守りなさい」ということ、②「あなたの持ち物をすべて売り払って、貧しい者たちに施しなさい」ということでした。…今日は、時間が無いので、詳しい説明ができませんが、実は、これは、この裕福な青年に必要なアプローチでした。…と言いますのも、この青年は、罪をよーく理解できておらず、本当は守っているはずのない、十戒の戒めを、「私は守っています!」と断言していたからです。…でも、イエス様が的確なアプローチができたのは、イエス様が神であって、この青年の問題点をすべて御存知であったから言えたことで…、これと同じようなアプローチを、神様でも、全知でもない私たちにはできない!ということなのです。

皆さんは、よくご存知だと思います。例えば、ルカ 19 章に記されてある、あのザアカイとの出会いで、イエス様は、恐らく、1度も会ったことも無いはずのザアカイに対して、「ザアカイよ!」と呼びかけて、「今日は、あなたの家に泊まることにしてある(原語を見れば、泊まらなければならない)」というようなことをおっしゃいました。…これにしても、イエス様が神様だから可能であったことでしょうか?…だって、私たちは、会ったことも、何の予備知識も無ければ、私たちは名前にしても、その人がどんな問題を抱えていて、どんなことを必要としているかなんて、ほとんど分からないじゃないですか!…そうでしょ?

当たり前のことですが、今日、私たちは、突然、教会を尋ねてくださった人がいくら裕福だからと言って、「あなたの持ち物をすべて売り払って、貧しい者たちに施しなさい!」とは言わないし、言ったらいけないでしょ!…だから、時々、私が言うように、聖書のみことばには、ただ単に、起こった出来事が事実として書き記されてあるから、私たちは、その事実を真似ようとするのではなくて…、そこから、私たちが学ぶべき原則や教訓がどのようなものか?ということを知り取る必要があるわけです。…ね!

● 聖書のみことばが教える、伝道に関する アドバイス とは?

じゃあ、皆さん。今から、ほんの少しですが、イエス様が教えてくださった、伝道に関する“アドバイス”に関して、考えていきましょう。イエス様は、例えば、ここマタイ 19 章を見ても、「あなた方も、このように伝道しなさい!」とは教えられませんでしたでしょ。…もう今日は時間がほとんど無いので、みことばを紹介することしかできないと思いますが、どうぞ、マタイ 5:16 のみことばを思い出してください。『このように、あなたがた

の光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』…⇒まず、このみことばは、イエス様が教えてくださった、伝道に関する1つのアドバイスと言えるのではないのでしょうか?…それと、もう1つ、1ペテロ 3:1-2 もご覧ください。そこには、こうあります。『1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものたされるようになるためです。2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこみ清い生き方を彼らが見るからです。』

⇒これら2カ所のみことばは、明らかに、私たちが救いを伝えようとするに当たって、「覚えておきなさい! 指針としなさい!」と教えてくれているみことばですよ?…これらに共通する教えて、皆さん、何だと思われませんか?…それは、「伝道には、私たちの行ないが必要である!」ということじゃありません?人々は、私たちの信仰を見て…、その生き方を見て、真の神様への関心を持ってくれるのではないのでしょうか?…また、神様は、そういったような伝道を願っておられるのではないのでしょうか?

<励ましの言葉>

正直に言わせて、例えば、教会堂がすごく見目麗しい…、誰もが感動するような教会堂を建てて、そこで美しい音楽を奏でて…、そういったことで、未信者の方たちが教会に来てくれることもあるでしょうし、それがいけないというわけではありません。あるいはまた、教会で英語クラスや生け花クラスなどを提供して、それで、未信の方たちに来てもらう…。それだって、全然、良いことだと思います。でも、そういったこと以上に必要なのは…、また、大切なのは、先にイエス様を信じ救われた私たちの信仰であり、その信仰ゆえの証し…、その生き方じゃないでしょうか!

先に救われた私たちが、未信の方たちから見て、魅力あるような…、神様のことを心から愛して、その神様から喜ばれるような歩みをしないで、果たして、私たちの伝道が用いられるでしょうか?…だから、私たちは、言葉で福音を語っていくのと同様に、いや、ひよつとしたら、それ以上に、私たちが福音のメッセージを愛し…、その福音を実践するような者となっていけないといけないのです!

今日、このメッセージを聞いてくださっているあなたは、イエス様のことを真唯一の神、わたしの救い主として、信じ受け入れておられるでしょうか?…もし、そうなら、このイエス様はあなたにとって、神様として、決して、無視できない…、この御方のことをあがめ、この御方のみこころを求め、他の何よりも、そのみこころに従っていかうとしておられるはずです。

また、このイエス様のことを正しく理解し、それを信じる事ができたら、皆さんの祈りは、ただ前後が変わった以上に、その中身もまた、大きく、信仰を持つ前とは変わっているはずです。そして、何より私たちの生き方もまた、信仰を持つ前とは、全く変わってしまっているはずです。…どうか、このイエス様が、喜んでくださるような、そんな人生を送っていただきたい…、どうか、そのイエス様の良き証し人となってほしいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。